

1 本年度の学校評価をふりかえって

学校教育目標「自己を見つめ、こころ豊かにたくましく生きる生徒の育成」を掲げ、「子どもたちの価値ある将来」に向けて、様々な教育活動を千秋学園職員との協働により実践することができた。授業の中で「分かった」「できた」を実感できるようにするために、生徒一人一人に作成した分校型個別支援計画を踏まえ、特別支援教育の視点を加えながら「個に応じた指導の工夫」を重点に取り組んだ。さらに、全教育活動を通じて生き抜く力と豊かな人間性の涵養に努めた。

山積する課題に対して千秋学園職員と連携しながら取り組むことで、生徒の変容につながる一定の成果が得られた。「個に応じた指導の工夫」の在り方を一層追究し、体験的活動を重視しながら学校生活の質的向上を図り、生徒の自立を支援していきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	設 施 内 学 校 の 特 性 を 考 慮 し た 教 育 課 程 の 工 夫	・生徒の実態を踏まえ、1単位時間を45分とし、時間割を2期に分ける教育課程を継続して実施することで、標準授業時数を確保することができた。 ・奉仕活動や農作業体験学習を実施することにより、生徒の勤労観や職業観を高めることができた。	A	・年度途中の生徒の転出入が頻繁にあるため、様々な状況を想定して、合同授業やT T授業の計画を策定しておく。 ・特色ある教育活動として、今後も千秋学園と連携しながら継続していく。	・生徒一人一人の実態に即した授業が展開され、学習意欲と学力が向上した。 ・社会性及び自立心を涵養するため、様々な社会資源を活用した体験学習がバランスよく実施され、勤労観や職業観の形成に役立った。
	学 習 意 欲 を 持 続 し づ け る 個 体 に 対 応 し た 指 導 工 夫	・分校型個別支援計画を踏まえ、「学習の可視化」「本時のめあての明確化」「振り返り活動の充実」等の個に応じた指導の工夫に取り組んだ結果、意欲的、継続的に学習に取り組める場面が増えた。 ・教科の専門性を生かした小中教員の相互乗り入れ、T T授業、学園職員との連携等によるきめ細かな指導を行い、基礎・基本の定着を図ることができた。	B	・学習の空白期間をもつ生徒が多いので、一人一人の困り感を把握した上で、個別の課題を準備するなど、個に応じた支援の一層の充実を図っていく。 ・特別な支援を必要とする生徒が多数を占めており、個に応じた指導を行う際の負担が大きくなっている。今後も特別支援教育に関する研修を深めながら、一層の個に応じた指導の工夫を実践していく。	・個に応じた指導の工夫が施され、継続性のある学びの中で基礎的・基本的な学習内容が定着してきた。 ・生徒一人一人の特性と能力に応じたきめ細かな教育の実践を推進したことで、連休や長期休業中も学園職員と連携を図りながら学習習慣を養い、学習意欲と基礎学力の向上につながった。
生徒指導	い じ め 防 止 の 取 組 充 実	・生活アンケートや二者面談、千秋学園との情報交換を通して、生徒の悩みや不安の解消に努めた。	A	・様々な教育活動を通して自他のよさを認め、互いに協力し合って物事を成し遂げる喜びを体験できるように配慮する。	・アンケート調査や面談の結果、寮生活における生徒の実態が確認され、個々の悩みや不安定な心理の解消に生かされるなど、学園と共有することで支援の効果を高めた。
千秋学園との連携	授 業 や 分 掌 に お け る 千 秋 学 園 と の 連 携	・朝の打合せや支援検討会議、子どもを語る会等で生徒の情報を共有し、学園の自立支援方針に基づいて指導の一貫性が図られ、緊密な連携を図ることができた。	A	・生徒一人一人に応じたきめ細かな指導ができるよう、千秋学園職員との効果的な連携の在り方を更に発展させ、学園との協働体制を一層推進する。	・定期的な情報交換のほか、日常の情報交換が切れ目なく適切にかつ積極的に実施されたことで、学園の支援との一貫性が図られ、効果的な指導や処遇の充実につながった。
<p>「家庭・地域との連携」・・・記述なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携は、自立支援の面から秋田県千秋学園が主管している。 ・地域との連携は、基本的に行わない。学校関係者には秋田県千秋学園を想定している。 					